竹下慶春

慶春の詩 III

竹下慶春

慶春の詩 III

詩集　慶春の詩 III

定価　二、〇〇〇円
（本体　一、九四二円）

平成五年八月二十日　発行

著者　竹下慶春

発行者　久野太綱

〒四七七
東海市加木屋町三ッ池
一二―一一三

制作　丸善名古屋
出版サービスセンター

〒四六〇
名古屋市中区栄三丁目二番七号

NMK 930806　ISBN4-89597-070-1　C0092　P2000E

目

次

プレゼント……9
道（我人生について）……10
時がなったら……11
宇宙……12
飛べない翼……13
四季……14
種……15
炎燃……16
春の雪・春の雨……17
季節・春……18
春やね……19
青春の旅人……20
花……21
片心……22
ジュテェーム……23
恋は私にとって翼を持った天使……24
青春時代を振り返える時……25
恋に落ちて……27
四月三日……28
僕は君に二度恋をした……32
ダミー……33
星くずのビーチ……34
サヨナラ……35
愛その物質……37
夏の陽炎……38
夏……39
眠り……40
季節・夏……41
大海……42

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

ツクツクボウシ……43
抱きしめて……44
季節・秋……45
秋……46
そい寝（晩秋）……47
グランド……48
赤トンボ……49
淋しい別れ……50
赤トンボ……51
トンボ……52
トンボ……53
童話と嘘……54
月見酒……55
酒　月……56
秘め言……57
秋　分……58
クリスマス・イヴ……59
遅れてやって来たサンタさん……60
星　灯……61
冬の螢……62
女性に求めるもの……63
男と女の約束……64
おみくじ……65
遊女唄……66
夜の川……67
かげろう……68
酔いどれ天使……69
ちょいと……70
恋　文……71

伝説……72
思い出に酔いしれて……73
古寺……74
信仰……75
恋の細道……76
冬……77
連……78
性……79
ふる里……80
いつの世も……81
浮き草……82
男と女……83
涙も枯れ果てて……84
泥酔……85
果て……86
悪しき者よ……88
初恋……89
人生……91
人類よ……92
かっこつけてる日々……93
マイルスの死と彼の曲を聴きながら……94
拝啓　クリフォード・ブラウン君……95
己れ……97
キザ……99
人……100
人生……101
学生時代（初めて詩集を出版したころ）……102

振りむけば夢の日々……103
虹のかかる街……105
ある日の君と僕……106
今、大衆の声を聞け……107
西の空……108
竹・下・慶・春……109
平和　祈りと愛……110
生命と科学……111
僕がしたいこと……112
光りは力である……113
自然界と共存主義……114
我と宇宙……115
前　進……116
古　典……117
セーヌの小舟……118
文芸・文学について……119
文芸・文学について……120
生の文学……121
スペイン……122
七月のパリは歌う……123
水の流れに……124
恋愛術……125
環　境……126
詩について……127
狂った歯車……128
青春をまぶしく生きたか……129
詩　人……130
酔っぱらった日々……131
人生のシナリオ……132
もう、一度……133

夢……134
自由ということ……135
ピリオード……136
思い出……137
月　日……138
詩人・詩心……139
真　理……140
神か仏か（他力本願か自力本願か）……141
愛（神仏について）……142
決　断……143
時　計……144
振り返えると……145
時……146
片　恋……147
シャルトル大聖堂……148
薔薇その光りと影……149
我人生について（道）……150
還　暦……151

慶春の詩　III

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.c

プレゼント

親愛なる人達へ
今夏、僕は詩集を出版します。
その時には君にも一冊贈ります。
好きとか嫌いとか恋とか愛とか
そんな事じゃなくて
ただ君と共に同じ時(とき)に生きた
僕にとって一番まぶしかった時、青春
それが懐かしくってここに
詩集を一冊君に贈ります。

1993年　K・TAKESHITA

道（我人生について）

夢見し夢の夢の中
我一人この道を
闊歩して行かん

時には春雨の中を
時には照り返す白浜の風の中を
……
……

時がなったら

時が鳴ったら
僕は君に打ち明けよう
好きだと
時が熟(な)ったら
僕は君の前にひざまずこう
君の愛を受け入れる為に
時が成ったら
僕は君にささげよう
愛の詩を

宇宙

青味をおびた太陽が
傷ついて沈んでいく
しかし
天地(しぜん)はその陽を優しく映し
やがて夜空に星を散りばめる
天地(しぜん)はいつも私達の罪を許し
天地はいつもその尊厳さを誇示する
この宇宙こそ
我々生有るものの生活の場なのだ

飛べない翼

若者には翼がある
夢という想像の翼だ
いつでも空を飛べるような
そんな気がする翼だ
若者、そして、やがて
その翼が空を飛ぶものではなく
地を歩くだけのものだと気付く
失望、そんなはかない翼
私にも昔、そんな翼があった
まぶしかったなぁ、あの頃は……

四　季

夢ふくらむ春
夢まぶしき夏
夢したう秋
そして
夢とじる冬
人生の四季

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c